

気づいた援助者

琉球大学教育学部附属中学校 2年 福島 瑠渚

「今日から毎日、注射頑張っってね。」

小学一年生の夏、小児科の先生に言われた言葉だ。私は幼児の頃の定期検診では「低身長・低体重」と毎回書かれていた。その為母が心配し、専門の病院で検査を受けた結果、「成長ホルモン分泌不全性低身長症」と診断された。

通常、睡眠時に成長ホルモンが分泌され身長が伸びるが、私の場合は自分の体内で成長ホルモンを作り出すことができないため、背が伸びにくい。それを補うため、毎日寝る前に成長ホルモンを注射していて、中学卒業まで続く予定だ。今でこそ慣れてきたが、始めた頃は毎日大泣きして暴れていた。

最近ふと、日々の注射代がいくらかかるのか気になり、父に尋ねてみた。「一本七万五千円で、毎月二本使うから年間で約百八十万円ぐらいだよ。」私はこの金額を聞いた途端、驚愕した。でも病院で毎回大金を払っていた覚えはなく、どうやって毎月多額の治療費を支払えたのか聞いたところ、

「この病気は小児慢性特定疾病に指定されていて、毎月の自己負担限度額が決まっているんだよ、だから治療ができるんだよ。」

と父から教わった。でも、なぜ全額支払わなくて治療ができるのか疑問が残り調べてみると、医療費助成に要する費用のうち二分の一を、国が消費税を財源として負担していることが分かった。まさか、税の中で一番身近な消費税のおかげで治療ができているとは思ひもしなかった。

税金というものは不思議だ。「お金を取られる」と感じることもあれば、私のように、「税金のおかげで助かった」と感謝することもある。時と場合によって見え方がまるで違うのだ。

事実、私は今まで、「税金は絶対支払わなければいけない」とどこか強制的なイメージを持っていた。だが今は、「巡り巡って多くの人を救える」という視点で捉えるようになった。そして今の私は、みんなが納める税金で安心して治療に専念することができている。

もし税金からの補助がなくて治療ができなかったら、低身長に劣等感を持ちながら生活していたかもしれない。そう考えると、税金がいかに身近でありがたいものかをこの作文をきっかけに知ることができた。

私の場合、中学卒業までの間、少なくとも義務教育にかかる費用プラス治療費の一部を税金に助けてもらうことになる。今は助けられることが多いけれど、社会人になったら、現在私が税から受けている恩恵以上に納税し、皆の役に立てるよう、今は学生としてできる勉強を頑張りたい。そして、税を通して私のように治療を頑張っている子たちの援助者の一員になりたい。